香川県農業試験場研究報告　第 33 号(1981 年 9 月)　56-64

香川県下のハウスミカン園の土壌化学性および葉中要素含量

原田豊・山田正純・坂井義春

香川県下のハウスミカン園において,土壌化学性および葉中要素含量について調査を行った。

１．表土については,弱酸性の園が多かったが,pH(H_2O)4.18 から 7.71 まで,変異の巾がきわめて大きかった。下層土は強酸性の園が多かった。

２．土壌塩類蓄積の指標とされている土壌電気伝導度は 0.03mmhos から 0.75mmhos までの範囲であり,一部ハウスでは土壌表層において塩類蓄積の度合がやや高かったが,一般的にはそれほど高くなかった。
　塩類蓄積の度合は元水田土壌と安山岩土壌でやや高く,花こう岩土壌と砂土で比較的低かった。

３．ハウスの被覆年数と,土壌の pH または電気伝導度との間には関連性がみられなかった。

４．土壌中の腐植含量は,全般的に少なかった。

５．塩基置換容量は 3.4me から 23.2me まで変異が大きかった。

６．葉中の N,P,K,Ca,Mg,Mn,Zn,Cu,Fe の含量は,普通露地栽培の場合の葉成分含量の基準とほぼ同程度であった。